

アルミバン S

(パレット車)

取扱書

よくお読みになってご使用ください。

取扱書は車の中に保管しましょう。

はじめに



このたびはアルミバン S (パレット車) をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書はアルミバン S を安全・快適にお使いいただくため、アルミバン S 独自の装備に関して正しい取り扱いを説明してあります。




また、アルミバン S 装備の点検・手入れについても記載してありますので、ご使用前に必ずお読みください。

- 車両の一般的な取り扱いについては、標準車の「取扱書」(別冊)をご覧ください。
- 販売店で取り付けられた装備の取り扱いについては添付されている取扱書をご覧ください。
- 安全・快適にお使いいただくため「まず読みましょう」は重要ですのでしっかりお読みください。

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」とその回避方法を下記の表示で記載しています。これらは安全のために特に重要ですので、必ず読んで遵守してください。

 警告	記載事項をお守りいただかないと、生命にかかわるような重大な傷害、事故につながるおそれがあること
 注意	記載事項をお守りいただかないと、傷害、事故につながるおそれがあること

お車のために必ず守っていただきたいことや知っておくと便利なこと、してはならない行為を示すイラストは、下記の表示で記載しています。

 アドバイス	お車の故障や破損を防ぐために守っていただきたいこと お車が故障したときにしていただきたいこと
 知識	知っておくと便利なこと 知っておいていただきたいこと
	してはならない行為

- ・お車をゆずられるときは次のオーナーのために本書をお車につけておいてください。
- ・ご不明な点は担当営業スタッフにおたずねください。

CONTENTS (目次)

まず読みましょう 2

各部の名称..... 6

主要諸元..... 7

リフト能力7

専用装置、装備の使い方..... 8

プラットフォームおよびアップドア8

室内灯 15

非常警報装置 15

手入れ、点検・整備項目..... 16

定期点検整備 16

消耗部品 17

簡単な点検 18

車の手入れ 22

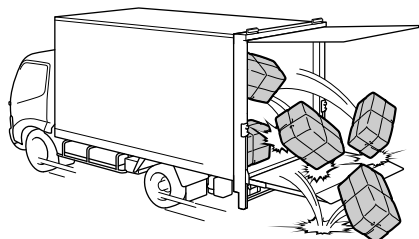
定期点検整備記録簿 25

まず読みましょう

確認しましたか？

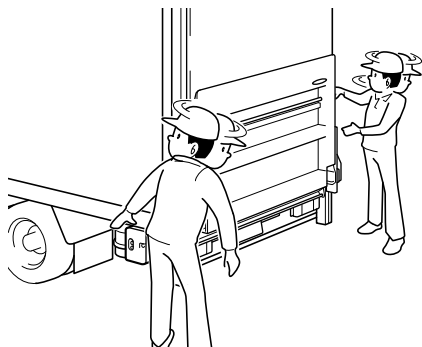
走行前にプラットフォームが確実にロックされていることを確認してください。

確実にロックされていないと、走行中にプラットフォームが開き、プラットフォームの損傷や積荷の落下など思わぬ事故につながるおそれがあります。



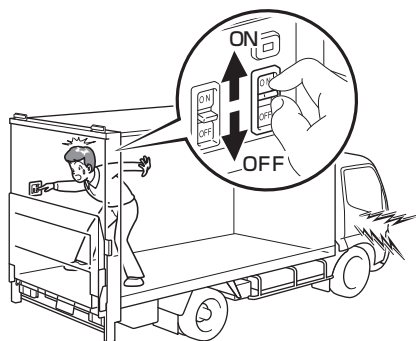
プラットフォームを使用するときは、周囲に人や物がいないことを確認してください。

プラットフォームが人や物に当たり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



非常警報装置が作動すること（スイッチ「ON」でホーンが鳴ること）を走行前に確認してください。

装置が正常に作動しないと、万一荷室内に人が閉じこめられたとき、外部に危険を知らせることができず、重大な事故につながるおそれがあり危険です。



不整地や傾斜地での作業はしないでください。

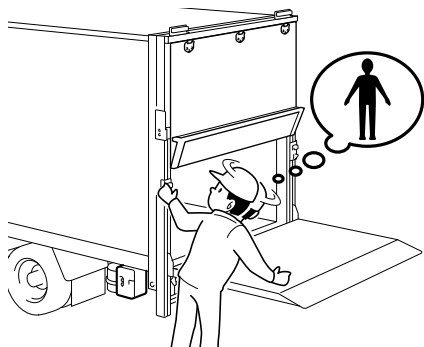
車両が傾いた状態での作業は、リフト装置の故障や寿命の低下につながるばかりでなく、積荷がプラットフォームから転落するおそれがあります。



危険です！

プラットホームを閉めるときは、必ず荷室内に人がいないことを確認してください。

荷室内に人が閉じこめられると、中からプラットホームを開けることができず、重大な事故につながるおそれがあり危険です。



プラットホームに乗って昇降操作をしないでください。

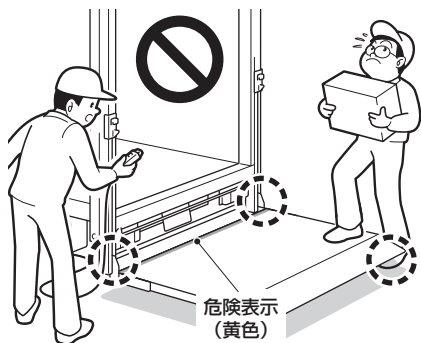
足元の注意がおろそかになり、転落やけがをするおそれがあり危険です。



プラットホームの開閉および昇降操作をするときは、作動部分やプラットホームが接触するボデー部分に手や足を触れないでください。

手や足を挟まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●プラットホーム上の危険表示（黄色の範囲）内には、絶対に手や足を入れたり積荷を載せたりしないでください。



ルーフ上にのぼらないでください。

ボデーの損傷やルーフからの転落など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

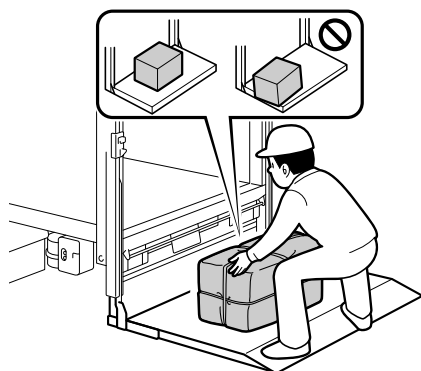
●積雪時、ルーフにのぼっての雪かきは絶対に行わないでください。



積荷を載せるときは

積荷はプラットホーム中央に載せてください。

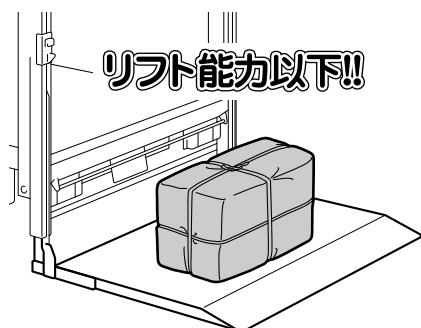
リフト昇降時の安全性は積荷の重さ（荷重）と積荷の搭載位置関係（荷重重心位置）に左右されます。積荷をプラットホームの端に載せると、積荷の落下など思わぬ事故につながるおそれがあります。



載せすぎていませんか？

プラットホームへの積荷は必ずリフト能力（600kg）以下にしてください。

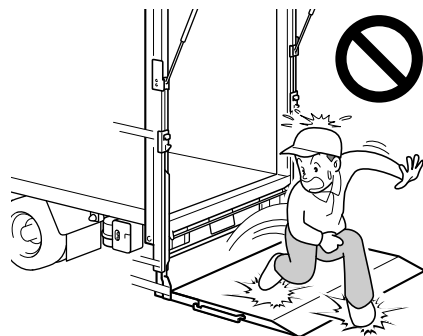
リフト能力以上積むとプラットホームは上昇しません。また、リフト装置の損傷につながるおそれがあります。



走行するときは

プラットホームを下げたまま車を移動させたり、放置しないでください。

プラットホームが人に当たってけがをさせたり、物に当たって損傷するおそれがあります。



やむを得ない場合以外は、急ブレーキ、急ハンドルはしないでください。

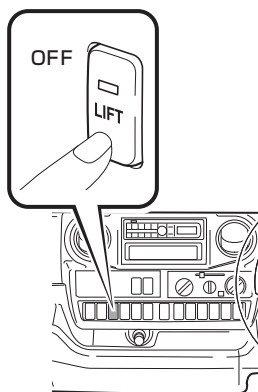
荷くずれ、積荷の移動、落下のもととなり、積荷の破損の原因になります。



車から離れるときは

プラットホーム使用後は、必ずメインスイッチを「OFF」にしてください。

メインスイッチを「ON」にしたままだと、誤ってリモコンスイッチを押してしまった場合に、意に反してプラットホームが動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

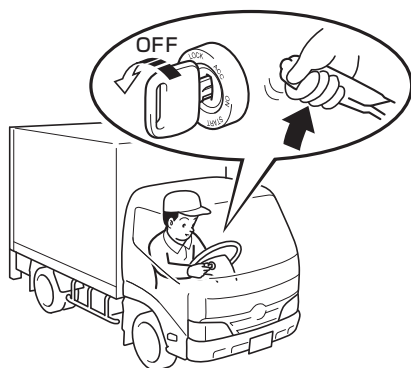


知識

スイッチの位置は、取得オプションやボデー幅によって、変動いたします。

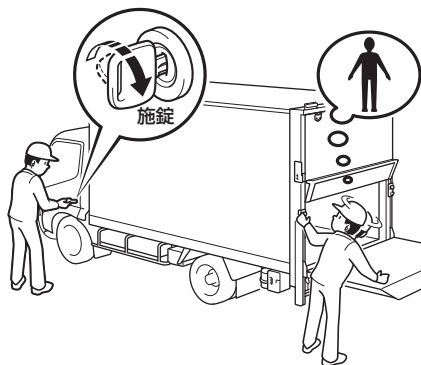
パーキングブレーキをかけ、必ずエンジンを止めてください。

無人で車が動き出したり、車両盗難のおそれがあります。

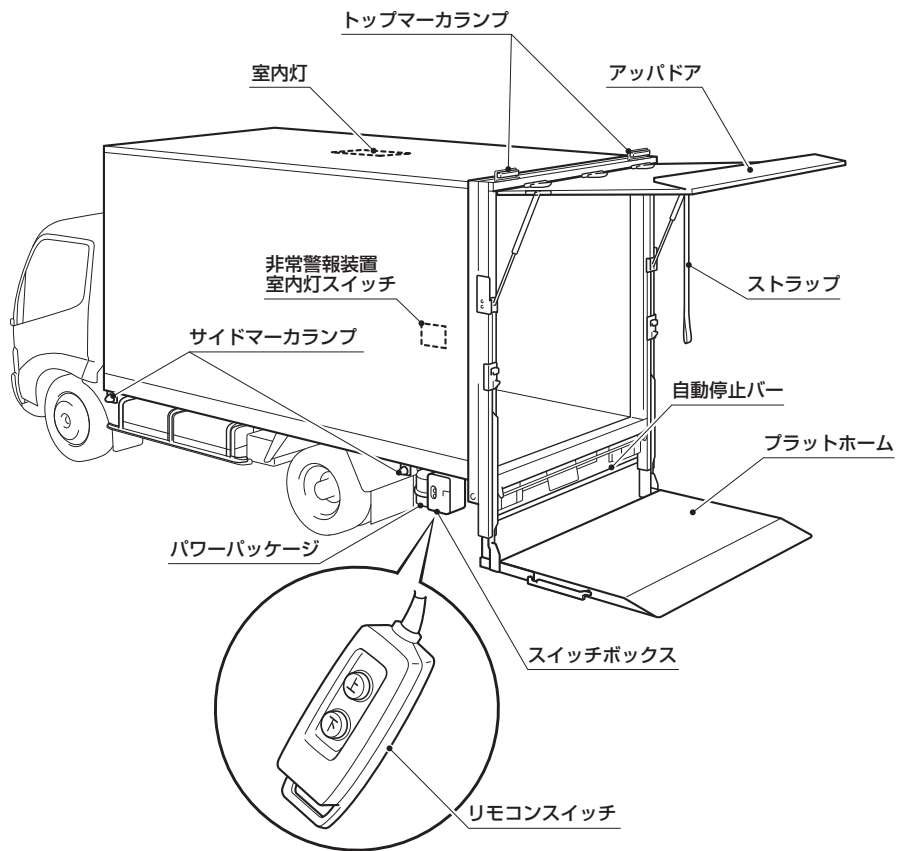


荷室内に人がいないことを確認し、施錠してください。

- 誤って荷室内に人が閉じこめられると、中からプラットホームを開けることができず、重大な事故につながるおそれがあり危険です。
- 盗難のおそれもありますので、施錠していても車内に貴重品をおいたままにしないでください。



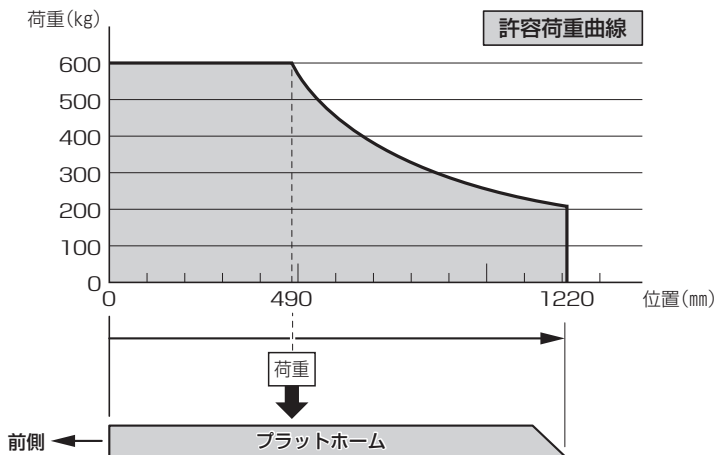
各部の名称



主要諸元

リフト能力

リフト能力は積荷の重さ（荷重）と積荷の搭載位置関係（荷重重心位置）により決まります。プラットフォームに積荷を載せ、昇降させるときは、荷重と荷重重心位置が許容荷重曲線の下側にあることを確認してください。



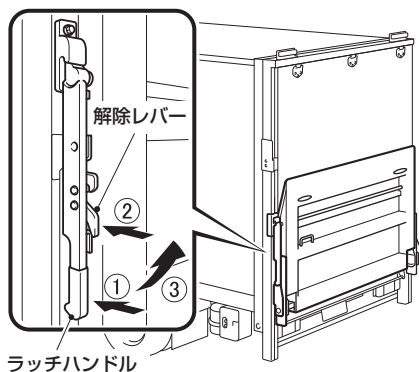
専用装置、装備の使い方

プラットホームおよび アップドア

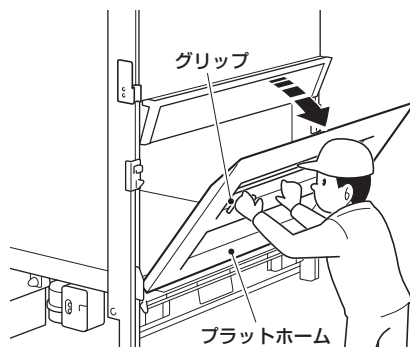
■ 開け方

1 プラットホームのロックを解除します。

- ラッチハンドルを押さえながら (①) 解除レバーを押さえ (②)、ラッチハンドルを手前に引き上げて (③) ロックを解除します。



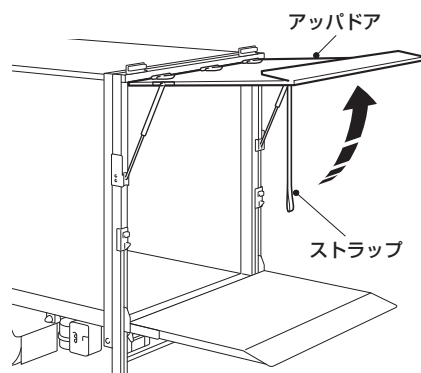
2 グリップを持ち、プラットホームを開けます。



👉 アドバイス

プラットホームは静かに開閉してください。乱暴な開閉はプラットホームや車両の破損につながるおそれがあります。

3 アップドアの先端を持ち上げて開けます。

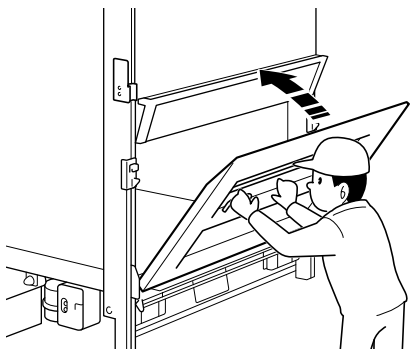


📖 知識

長時間プラットホームの昇降をされなかった場合、プラットホームが下がり、プラットホームのロック解除が重くなる場合があります。その場合はリモコンスイッチの「上」を押し、プラットホームを上昇させてください。

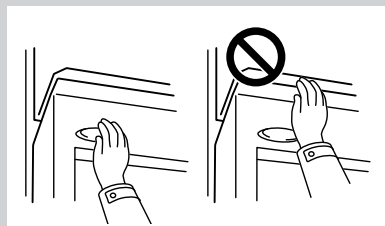
■ 閉め方

- 1 ストラップを引き、アッパドアを閉めます。
- 2 グリップを持ち、プラットホームを閉めます。

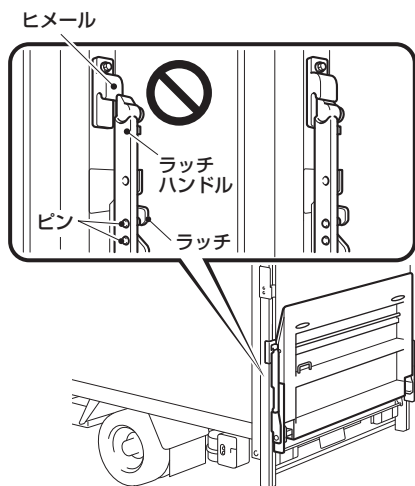


⚠ 注意

プラットホームを閉めるときは、アッパドアとの接触部付近に手を入れないでください。手を挟みけがをするおそれがあります。

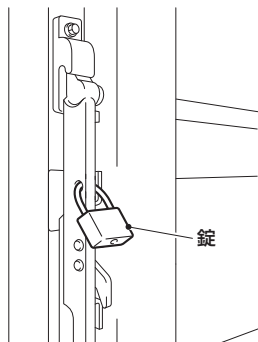


- 3 プラットホームをロックします。
 - ラッチハンドルの先端部がヒメールに確実にはめ込まれていることを確認し、いっぱいまでラッチハンドルを押し込みロックします。
 - ラッチがピンに確実にかかっていることを確認します。



■施錠のしかた

市販されている錠を取り付けることができます。



⚠ 警告

車から離れるときは、必ず荷室内に人がいないことを確認し、プラットホームおよびアップドアを閉め施錠してください。誤って人が荷室内に閉じこめられると、中からドアを開けることができず、重大な事故につながるおそれがあり危険です。また、盗難のおそれもあります。

プラットホームの昇降操作

⚠ 警告

プラットホームの昇降操作をするときは、手足を挟まないよう、車から少し離れた安全な位置で行い、プラットホームの作動部分や、プラットホームが接触するボデー部分に手や足を近づけないでください。

⚠ 注意

操作前に人の立ち入りがなく、車両後方に十分なスペースがあること、プラットホーム接地面および周辺に障害物がないことを確認してください。

■昇降のしかた

- 1 車を水平な場所に止め、必ずパーキングブレーキをかけ、タイヤに輪止めをします。

●エンジンはかけたままにしておきます。

⚠注意

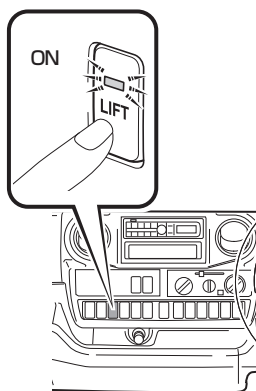
不整地や傾斜地での作業は行わないでください。車両が傾いた状態で作業を行うと積荷が落下するおそれがあります。

👉アドバイス

プラットフォームの昇降操作をするときは、必ずエンジンをかけてください。エンジンをかけないとバッテリーあがりの原因になります。

- 2 メインスイッチを「ON」にします。

●ランプが点灯します。

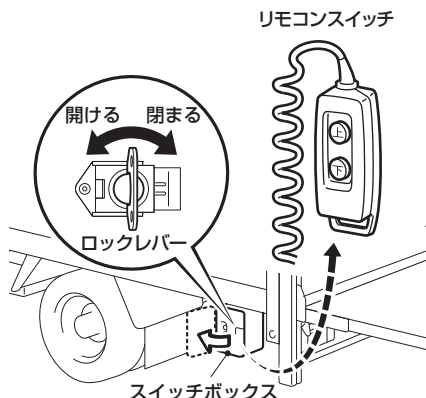


🎓知識

スイッチの位置は、取得オプションやボデー幅によって、変動いたします。

- 3 プラットホームを開けます。(8 ページ参照)

- 4 車両左側後方にあるスイッチボックスのロックレバーをまわしてロックを解除してカバーを開けます。

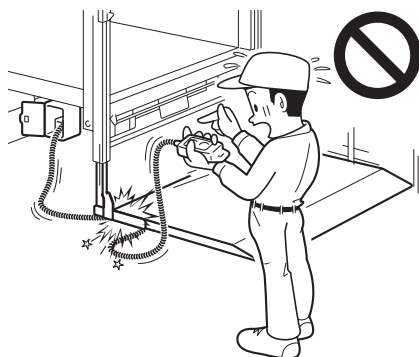
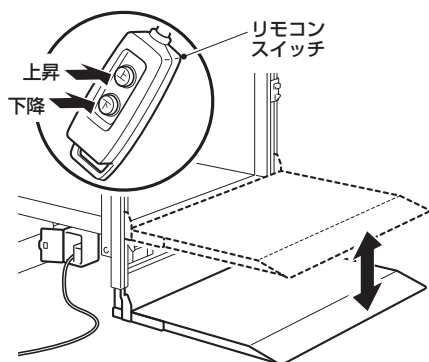


- 5 リモコンスイッチをスイッチボックスから取り出します。

※リモコンスイッチはスイッチボックス内に収納された状態でも操作することができます。

6 リモコンスイッチの「下」を押している間プラットホームは下降し、「上」を押している間プラットホームは上昇します。

- スイッチの「上」「下」を押し間違えないよう注意してください。
- スイッチから指を離すと、プラットホームはその位置で停止します。

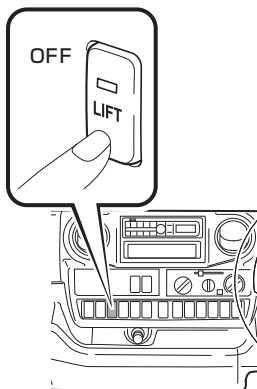


アドバイス

コラムポストの下側に操作スイッチハーネスを挟まないように注意してください。ハーネス断線およびヒューズ切れを起こすおそれがあります。

- プラットホームを上昇させるときは荷室フロア面まで上昇して停止したらスイッチから指を離してください。
- プラットホームを下降させるときは地面に接地して停止したらスイッチから指を離してください。

- 7 作業後はプラットフォームを荷室フロア面で停止する位置まで上昇させ、メインスイッチを「OFF」にします。



⚠ 注意

- プラットホームに乗って昇降操作しないでください。足元の注意がおろそかになり、プラットフォームから転落してけがをするおそれがあります。
- 作業終了後は、必ずメインスイッチを「OFF」にしてください。メインスイッチを「ON」にしたままだと、誤ってプラットフォーム操作スイッチ（リモコンスイッチ）を押してしまった場合に、意に反してプラットフォームが動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

👉 アドバイス

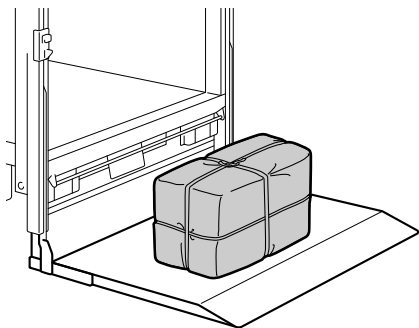
- プラットホームを閉めたまま操作しないでください。プラットフォームが故障するおそれがあります。
- プラットホームをいっぱいまで上昇・下降させたら、スイッチから指を離してください。20秒以上押し続けるとモータが故障する原因になります。

🎓 知識

- リモコンスイッチの裏面は磁石になっていますので、車のボデーの任意の位置に取りつけ固定することができます。
- プラットホームを荷室フロア面で停止する位置まで上昇させないと、プラットフォームを閉めることができません。
- スwitchの位置は、取得オプションやボデー幅によって、変動いたします。

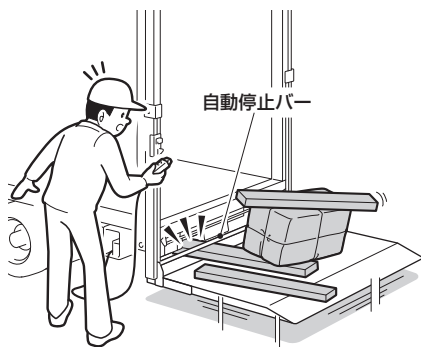
積荷を載せるときは

積荷は必ずリフト能力（600kg）以下とし、プラットホームの中央部に載せます。（7ページの表参照）



■ 自動停止バー（緊急停止装置）

プラットホーム上の積荷が、自動停止バーに触れるとその時点でプラットホームが停止します。



⚠ 注意

- 積荷はプラットホームの中央より少し前寄りに載せてください。リフト昇降時の安全性は積荷の重さ（荷重）と積荷の搭載位置関係（荷重重心位置）に左右されます。積荷をプラットホームの端に載せると、積荷が車両に巻き込まれたり、積荷の落下など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- プラットホームが水平になっていることを確認してください。
- 積荷が滑り落ちないことを確認してください。プラットホームは積荷により傾くことがあります。



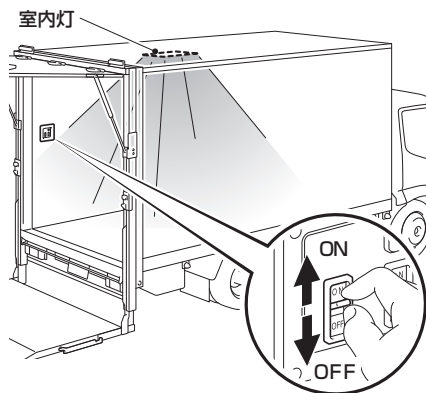
アドバイス

プラットホームへの積荷は、必ずリフト能力以下としてください。リフト能力以上積むとプラットホームは上昇しません。また、リフト装置の故障につながるおそれがあります。

室内灯

荷室内左側後部に室内灯スイッチがあります。

スイッチを「ON」にすると室内灯が点灯し、「OFF」にすると消灯します。



アドバイス

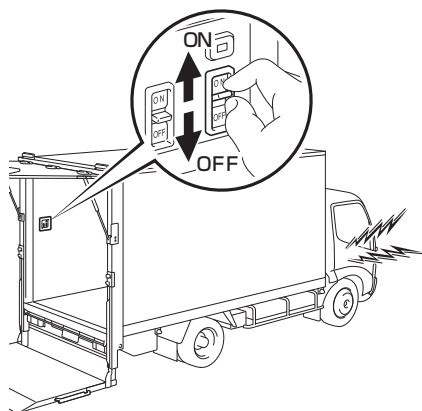
- 作業終了後や長期間車を使用しないときは、必ずスイッチを「OFF」にしてください。バッテリーあがりの原因になります。
- 点灯回数で寿命が変わります。必要なとき以外は「OFF」にしてください。

非常警報装置

万一、荷室内に閉じこめられた場合に、荷室内から車のホーンを鳴らすことができる装置です。

荷室内左側後部に非常警報装置があります。

スイッチを「ON」にすると車のホーンが鳴り、荷室内に人がいて危険なことを知らせます。



警告

非常警報装置が作動すること（スイッチ「ON」でホーンが鳴ること）を運行前に確認してください。装置が正常に作動しないと、万一荷室内に人が閉じこめられたとき、外部に危険を知らせることができず、重大な事故につながるおそれがあります。

手入れ、点検・整備項目

定期点検整備

故障を減らして長く大切に使うために定期点検整備をお願いします。

点検結果を記録する際には、25ページの記録簿をA4サイズにコピーして使用してください。

点検整備項目		点検時期			交換時期(年)	備考
		日常点検	12か月ごと	24か月ごと		
電気	非常警報装置の作動	○	○			スイッチ「ON」でホーンが鳴ること
	室内灯のON/OFF トッパーランプ・ サイドマーカランプのON/OFF	○ ○	○ ○			ライトスイッチ「ON」で点灯すること
ドア	アップドア ・開閉時の作動状態	○	○			確実にドアが閉まり、引っかかり、異音がないこと
	・シールの摩耗・破れ	○	○			
リヤボデー	内外板の錆・破損・異常な浮き上がり シャシとの締結ボルトの締め付け ボデー床下フレーム締結ボルトの締め付け マウンティング部のシムの摩耗	○	○ ○ ○ ○			
油圧装置部	油圧作動油 ・油の汚れ			○	2	新車時は3か月後
	配管部の異常 ・油漏れ ・ホース交換	○	○ ○		4	ユニオンナットのゆるみ、耐圧ホースのふくれ、すり切れ、破れ、クランプのはずれ、たれ下がり、フロア下面の油圧ホースの損傷がないこと
	パワーパッケージ ・取り付け部の締めつけ ・作動状態および作動油漏れ、異音			○ ○		
	シリンダ ・取り付け部のガタ、変形 ・作動状態（引っかかり、異音） ・オイル漏れ	○	○ ○ ○			

点検整備項目		点検時期			交換時期 (年)	備考
		日常点検	12か月ごと	24か月ごと		
パ ワ ー リ フ ト 部	ワイヤ ・変形、損傷、摩耗 ・グリース塗布 ・ワイヤ交換	○	○ ○		2	
	プーリ ・変形、損傷、摩耗 ・作動状態		○ ○			異常摩耗時交換
	プラットフォーム ・傾き、変形 ・グリース塗布（しゅう動部）	○	○			
	各部取り付け部のゆるみ、ガタ、損傷		○			
	自動停止装置の作動状態		○			

消耗部品

下記部品は使用頻度・経年変化等により、消耗・劣化する部品です。
点検時に摩耗や損傷状態を見て早めに交換してください。

●交換作業は販売店にお申しつけください。

ドアウェザーストリップ、ワイヤ、油脂類、電球・ヒューズ、プーリ

簡単な点検

ヒューズの点検・交換

装置が正常に作動しないときは、ヒューズ切れやランプ自体の球切れが考えられます。

ヒューズが切れていたら、ヒューズラベルの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換してください。

● 標準車の取扱書の『ヒューズ』のページをあわせてご覧ください。

警告

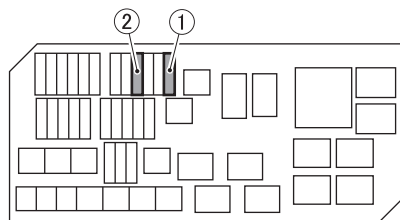
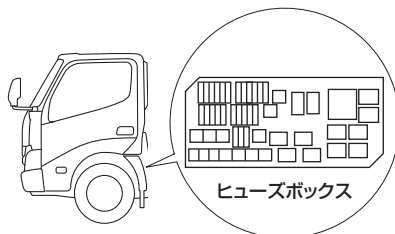
規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱・焼損し、火災になるおそれがあり危険です。



アドバイス

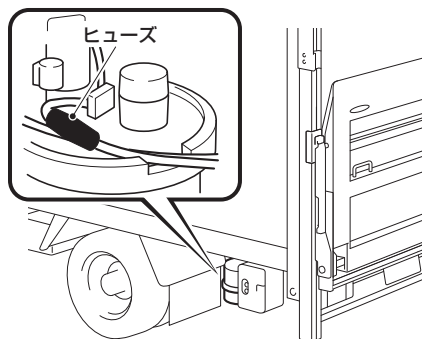
取り替えてもまたヒューズが切れる場合は、販売店で点検を受けてください。

■ 室外ヒューズボックス



ヒューズ名称	ヒューズの受け持つ主な装置名称
① P-BATT	室内灯、非常警報装置
② P-TAIL	マーカランプ

■ パワーパッケージ内

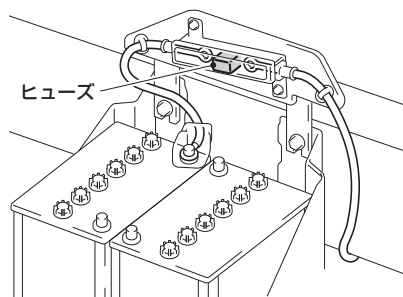


アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
15A	リモコンスイッチ

灯火類

種類	ワット数
室内灯	24V/20W 12V/20W
サイドマーカランプ	24V/6W 12V/5W
トップマーカランプ	24V/1.2W 12V/1.2W

■ バッテリー⊕端子部



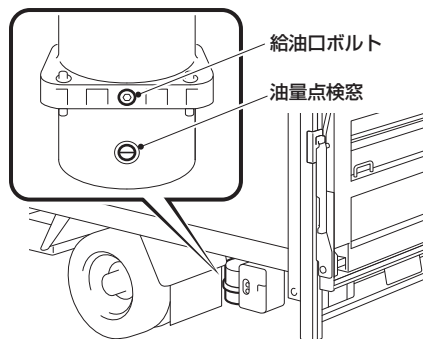
アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
60A	プラットフォーム昇降用モータ

作動油の点検

■点検のしかた

プラットフォームをフロア面まで上昇させた状態で点検します。

- パワーパッケージの油量点検窓のほぼ中央部まで作動油があれば適量です。



■補給のしかた

- 1 作動油不足の場合は、給油口ボルトをはずし、オートフルードWSを補給してください。

作動油規定量 ^{※1}
2.0L

※1：規定量は参考値です。

👉 アドバイス

指定の作動油以外は絶対に使用しないでください。油圧装置の故障につながるおそれがあります。

- 2 作動油補給後、3～5回プラットフォームを動かして、ポンプおよび回路内のエア抜きをしてください。

ワイヤの点検

① プラットホームの左右の傾き（水平）の有無を点検してください。

② プラットホーム下降位置でのワイヤ切れを点検してください。

上記の点検で異常が見つかった場合は、販売店で点検を受けてください。

■ ワイヤの交換基準

交換基準 2 年間

（プラットホームの上昇・下降回数が 1 日当たり約 20 回を目安）

使用回数が多い場合は点検を頻繁にして、下記のような異常が認められたときは、ただちに交換してください。

● ワイヤの交換は販売店にお申しつけください。

● ワイヤを交換するときは、プーリもあわせて交換することをおすすめします。

⚠ 警告

ワイヤに異常が認められたときはただちに交換してください。そのまま使用するとワイヤの折損となり、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

● 300mm あたりの素線切れが 10 本以上あるとき



● 直径の減少が公称値の 7% をこえているとき
基準寸法 6 φ mm



● 著しい形くずれ、または腐食があるとき



車の手入れ

日頃の手入れ

車をいつまでも美しく保つためには日頃の手入れが必要です。

■ 次のような場合は、ただちに洗車をしてください

塗装の劣化や車体・部品の腐食などを早める原因になります。

- 海岸地帯の走行をしたとき
- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
- ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下の多い場所を走行したとき
- ほこり、泥などで著しく汚れたとき

■ 塗装について

- 飛び石傷やかき傷は、ボデーの腐食の原因になりますので、見つけたら早めにタッチアップペイントなどで補修してください。
- ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤が付着したときは、塗装を損傷しますので、ただちに拭き取る、洗車するなどしてください。

■ 外板の手入れ

水洗いをします。

- 汚れのひどいときは、中性洗剤を使用します。
- 毛の硬いブラシなどは使用しないでください。



アドバイス

洗車するときは積荷のないときに行ってください。特に高圧洗車機を使用するときは、ノズルの先端をプラットホームおよびアップドア周辺に近づけすぎないでください。近づけすぎると水圧が高いため、荷室内に水が入るおそれがあります。

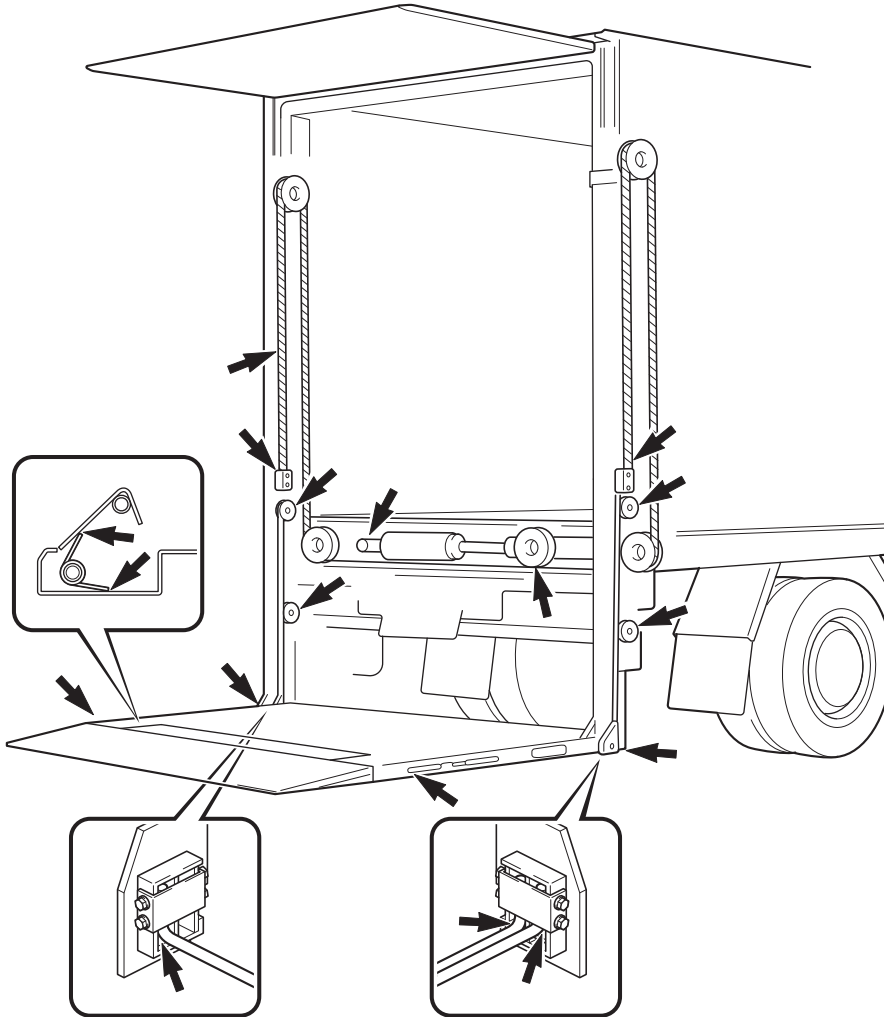


■ 内板の手入れ

濡れたふきんで拭いてください。

給油脂

12 か月に一度の割合で下記の箇所にグリースを塗布してください。



MEMO

12か月定期点検整備記録簿

分解整備記録簿

該当なし	異常なし	交換	X 締付	T 清掃	C
調整	A	修理	△	分解	○
				給油	L
				省路	P

点検の結果および(分解)整備の概要

■電気廻り点検

- 非常警報装置の作動室内灯のON/OFF
- トップマーカーランプ・サイトマーカーランプのON/OFF

■ドア廻り点検

- アッパドア
- 開閉時の作動状態
- シールの摩耗・破れ

■リヤボデー廻り点検

- 内外板の錆・破損、異常な浮き上がり
- シャシとの締結ボルトの締め付け
- ボデー床下フレーム締結ボルトの締め付け
- マウンテイング部のシムの摩耗

■24か月毎の交換

- 油圧作動油の交換 (新車時は3か月後)
- ワイヤの交換

■48か月毎の交換

- ホースの交換

■油圧装置廻り点検

- 油圧作動油の汚れ

■配管部の異常

- 配管部の油漏れ

■ワイヤーパッケージ

- 取り付け部の締めつけ
- 作動状態および作動油漏れ、異音

■シリンダ

- 取り付け部のガタ、変形
- 作動状態 (引っかかり、異音)
- オイル漏れ

■パワーリフト廻り点検

- ワイヤ
- 変形、損傷、摩耗
- グリース塗布

■ブーリー

- 変形、損傷、摩耗
- 作動状態

■ブラットボーム

- 傾き、変形
- グリース塗布 (しゅう動部)
- 各部取り付け部のゆるみ、ガタ、損傷

■自動停止装置の作動状態

氏名又は名称	依頼者の氏名又は名称及び住所
住所	

メンテナンスに關するアドバイス	
型式	初年度登録または初年度検査年
自動車登録番号又は車両番号 (左記の無い車両に於ては、車台番号)	
自動車分解整備事業者の氏名又は名称及び事業場の所在地 氏名又は名称	
事業場の所在地	
認証又は指定番号	点検の年月日
分解整備 (点検) 時の総走行距離	整備を完了した年月日
kt	年 月 日
整備主任者の氏名	

ボデー型式	
架装物名	アルミバンS (バレット車)
ボデーNo.	kt
お客様の業種・種別	架装メーカー名
	トヨタ車体(株)

アルミバン S (パレット車)

適用車種

トヨタ ダイナ、日野 デュトロ



車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。

〈本書の内容のお問い合わせは下記へお願いいたします〉

商用ビジネス部

TEL (0566) 36-2497 FAX (0566) 36-2498